

## - 6 . G M O のステークホルダーに関する調査

### Survey on GMO and Stake Holder

<b>キーワード</b>	遺伝子組換え技術、ステークホルダー、遺伝子組換え食品
<b>Key Word</b>	GM technology, stake holder, GM food

#### 1. 調査の目的

平成20年度科学技術振興調整費「遺伝子組換え技術の国民的理解に関する調査研究」(研究代表者:筑波大学鎌田博教授)に関連して、GMOのステークホルダー(関係者)に関する動向を取りまとめる。

#### 2. 調査研究成果概要

##### (1) GMOをめぐるステークホルダー

図1に、遺伝子組換え技術などに関連する情報の流れとステークホルダーの構造を簡単にまとめる。

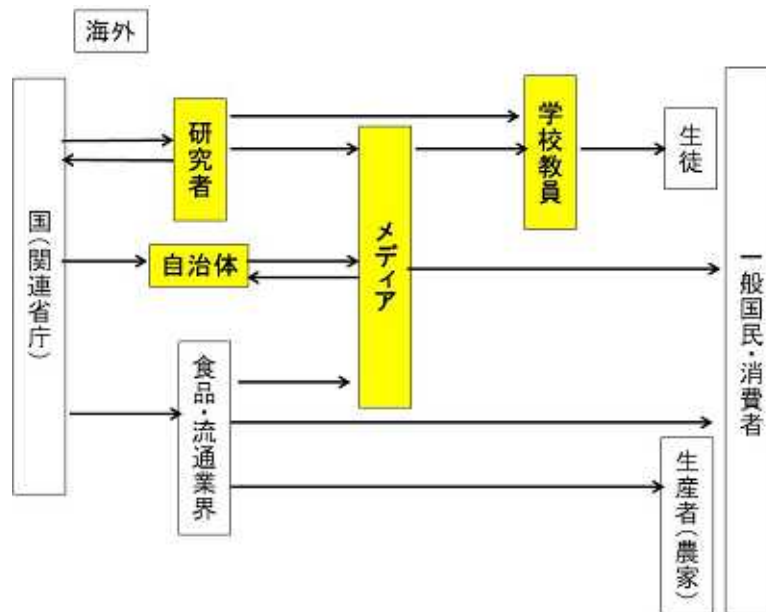


図1 遺伝子組換え技術などに関連するステークホルダーと情報の流れ

##### (2) 研究者コミュニティの意識

2008年10月、東京で実際された、GMOに関連する関連学会研究者による意見交換会での主な意見を紹介する。

理解増進のゴールはなにか？

- ・一般消費者も本音とタテマエは使い分けている。
- ・理系大学生のアンケートで、DNAを摂取すると、そのまま体内に取り込まれると誤解する学生もいる。
- ・全国民が、細かいところまできちんと理解してもらう必要はないのでは？正確を期した説明をすると、かえって混乱することも考えられる。
- ・国民に日本国内のGMOの生産・流通・消費の実態をきちんと知ってもらうことが重要。

## 研究者と社会性

- ・研究者は、これまでは組換え技術の研究論文をまとめるだけでよかった。社会に向かって、安全性を説明することはしてこなかった(それで済んでいた)。
- ・基礎研究から製品化までを一貫して取り組む姿勢が日本では少ない(モンサントなどは一貫した研究・開発・製品化戦略をもっている)
- ・GMO安全性研究などは、研究実績としては評価されにくい。日本では、論文とインパクトファクターしか評価の対象にならない。

## どのようなGMO開発をめざすべきか

- ・売れる品種を作らないと、社会的に受容されない。
- ・「あってもよい」組換え植物ではなく、「なくては困る」組換え植物があるといい。
- ・まずは家畜用飼料のGM化からスタートしてはどうか。
- ・20年後くらい先を見越した明確な農業の将来ビジョンを考えるべき。
- ・日本が開発したGM技術で、海外でつくった作物を輸入するという選択肢はある。
- ・農家向けのGMOでなく、消費者(患者)向けのGMOにシフトすべき(花粉症緩和米など)

## GMOと学校教育

- ・中学・高校の先生の理解が低いのはかなり問題。大学などの科学者が教員を指導するということがあるが。
- ・理科と、家庭科・社会科・保健体育などで、教える内容にばらつきがある。教科科目をこえたカリキュラム連携が必要。
- ・GMOに関して農林水産省から明確なメッセージができれば、文部科学省の取り組み姿勢も変化するかもしれない。

## (3) 遺伝子組換え食品の流通実態

我が国における遺伝子組換え食品の流通実態に関する統計データは存在しない。

実際に店頭に出回っている食品は、「遺伝子組換えであると表記された食品」、「遺伝子組換えでない」と表記された食品、および「不分別と表記された食品」および「遺伝子組換えに関しては何も表記されていない食品」の4種類が存在する。

東京都による遺伝子組換え食品の検査結果(表1)では、ダイズあるいはトウモロコシ加工品の1~2割から、遺伝子組換え体が検出(5%以下の検出)されている。

表1 安全性審査済みの遺伝子組換え食品の検査結果

		検体数(A)	検出せず	5%以下の検出(B)	B/A(%)
農 産 物	ダイズ	111	104	7	6.3%
	トウモロコシ	25	24	1	4.0%
加 工 品	豆腐	30	18	4	13.0%
	その他のダイズ 加工品(注1)	48	32	7	14.6%
	トウモロコシ 加工品(注2)	106	69	22	20.8%

注1:「その他のダイズ加工品」きな粉、大豆水飴、卵白、豆乳類、おから他  
注2:「トウモロコシ加工品」スイートコーン、スープ、タコス、菓子、コーンフラワー他

(出典)平成18年度・19年度 東京都 遺伝子組換え食品検査結果より作成